

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 16日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520678

研究課題名（和文） 随筆「甲子夜話」全文検索システムの構築と公開に関する研究

研究課題名（英文） Research on construction and public presentation of the essay "Kassi-Yawa" full-text search system

研究代表者

岩崎 義則（IWASAKI YOSHINORI）

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：60294849

研究成果の概要（和文）：

第九代平戸藩主松浦静山の随筆「甲子夜話」（全278巻）について、東洋文庫本『甲子夜話』（全20冊）を底本とした全文のテキスト入力データをもとに、ネットワークサーバ上に全文検索システムを構築し公開した（<http://yosi-iwa.sakura.ne.jp/programs/essay/contents>）。あわせて、『甲子夜話』執筆にあたり、重要な情報源となった平戸藩楽歳堂文庫とその蔵書目録について調査研究を行い、蔵書目録の作成・伝来過程を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

About the essay of the ninth generation Hirado Domain main Matsuura Seizan "Kassi-Yawa" (all the 278 volumes), Based on Toyo Bunko book "Kassi-Yawa" (all the 20 volumes), based on the whole sentence text data, On the network server, the full-text search system was built and this was exhibited.

(<http://yosi-iwa.sakura.ne.jp/programs/essay/contents>)

Moreover, when the Matsuura Seizan wrote the "Kassi-Yawa", surveillance study was performed about the library (楽歳堂) and library catalogue of Hirado Domain used as important sources of information. And creation / introduction process of the library catalogue was clarified.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：甲子夜話、楽歳堂文庫、松浦静山、平戸藩

## 1. 研究開始当初の背景

(1)江戸で退隠した平戸藩主松浦静山が、親交があった林述斎の勧めにより、文政年間より晩年の約20年間を費やして書き綴った『甲子夜話』は、正篇100冊・続篇100冊・三篇78冊の計278冊に及ぶ。当代一流の知識

人らと交わり、博覧強記な文人大名が残した遺産は、江戸の文化水準の高さを如実に体言しており、まさに近世日本を代表する一大随筆として、その学術的な価値は誰もが認めるところである。収録された内容も多岐に亙り、一々の指摘が枚挙に遑がないほど、歴史学の

専門研究においても、『甲子夜話』の記述は縷々引用・利用されている。総じて、「夜話」の特定の記事が、研究者個人の問題関心にもとづき、学術的現場において頻繁に利用・活用される傾向にある一方、肝心の『甲子夜話』自身の書誌学的・史料学的研究は、中村幸彦「『甲子夜話』正編解説」（東洋文庫『甲子夜話 6』、昭和 53 年）以降、福田千鶴氏による先論があるのみである。

(2)『甲子夜話』自身が余りに膨大であるため、人名・書名・地名といった固有名詞の索引・インデックスさえ存在しないという背景があった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、松浦静山が執筆した随筆「甲子夜話」（全 278 巻）について、散逸した原本の所在調査、活字版底本となった写本（2 系統）相互の特に凶版の校合作業、楽歳堂文庫蔵書・蔵書目録を基軸とした関連諸文献との相互対照を行いつつ、「任意の検索語でその収録巻と記事番号を引くための全文検索システム」を構築し、これを学術的な共用資産として広く公開することにある。

## 3. 研究の方法

### (1)『甲子夜話』のデータ入力

東洋文庫（平凡社・全 20 冊）を底本とし、目次行の処理、複多行処理、訓点処理などを定めた入力要項を作成。この入力要項にもとづき、全文検索システムの母体となる JIS コードでのテキストデータの入力作業を実施した。また、入力テキストデータについては、校正作業と CSV 形式への変換なども実施した。

### (2)『甲子夜話』収録凶版の研究

松浦史料博物館の懇切な協力を得て、貴重な「甲子夜話」副本（全 278 巻）について、その全丁を調査し、必要な凶版画像（約 2,000 枚）を入手・整理した。

また、『甲子夜話』に収録した原因が確認できたものについては、原因の調査を松浦史料博物館にて行い、目録等他の関連史料の記述などを探った。

### (3) 楽歳堂文庫蔵書目録のデータベース

『甲子夜話』と密接な関係がある平戸藩楽歳堂の蔵書目録類の調査を実施し、蔵書目録の書誌的研究とその書目データのデータベース化を試みた。

### (4)『甲子夜話』全文検索システム

専門的知識を有する技術者（システム・レ

コ）に対して、「甲子夜話」テキストの入力サンプルを提供し、全文検索システムの構築と WEB 上での公開に必要な OS・ソフトの仕様を研究した。

元来、九州大学文学部のサーバー内にシステムを構築する予定であったが、学部サーバーの移転等の予期せぬ事態が発生したため、検索システムは、「さくらのレンタルサーバ」内に構築することとした。

### (5)『甲子夜話』原本の搜索

主に早稲田大学所蔵本について、同大学の古典籍データベースに掲載された画像をもとに研究・検討を行った。

## 4. 研究成果

### (1)『甲子夜話』の全文テキスト検索システムについて

東洋文庫本（全 20 冊）に収録された『阿甲子夜話』全文のテキストのデータ入力を完成し、ネットワーク上にて検索システムを構築し、これを公開した。但し、関連 URL は以下の通りである。

<http://yosi-iwa.sakura.ne.jp/programs/essay/contents/public/>

なお、任意の検索語から、その検索語が収録された『甲子夜話』の記事番号を返すシステムである。しかし、JIS コードに収録されない文字の取扱いについては、いわゆる「青空文庫」形式で、漢字を解字してより、編と部首との組み合わせを明示する形式を採用した。UNICODE ベースでの検索システムの再構築が出来れば、より多くの文字が網羅できるため、かかる点は、データベースのメンテナンスを実施しつつ、今後、検討したい。

### (2)『甲子夜話』収録画像について

『甲子夜話』収録された画像について、適宜、キャプション・解説を付け、①の全文テキストの中に挿入した。また、松浦史料博物館において原因が確認できた「広東真景図」・「茶枳尼天像」、さらには、「秀吉宛明国王諭告文」複製図等については、個別に調査・研究を行い、「大名蔵書の中の国際交流」," The Book Collection of a Literati Daimyo in Early Modern Japan and Information Exchange"等にて紹介した。

一方、松浦史料博物館にて調査した副本の画像については、その複製利用にあたり、無断掲載禁止との規約があり、現時点で副本収録の凶版については、ネット等での全般的な公開はできない。

### (3) 楽歳堂文庫蔵書目録について

『楽歳堂蔵書目録』・『新增書目』・『楽歳堂蔵和書目・同漢書目』及び『琴書要録』等数種の楽歳堂蔵書目録の調査を実施し、その作

成と伝来に関する基礎的な研究を行った。

即ち、松浦史料博物館伝来の『楽歳堂蔵書目録』が静山の自筆であることを確定し、さらに、これが主に江戸で活用された蔵書目録であることを確定した。他方、京都大学が所蔵する同名の目録写本は、国元平戸で活用された目録、しかも、静山自筆本を特定の時期に筆写した写本であるとの見解を得た。

また、『新增書目』は、静山の隠居を前後して江戸で作成された楽歳堂の蔵書目録であり、静山の隠居前後を画期として、平戸と江戸で楽歳堂の蔵書が分離・乖離する過程を明らかにした。

さらに、こうした見解によって、『甲子夜話』執筆時、静山が参照してきた書物群が江戸での蔵書であったことが特定できた。かかる内容は、「大名蔵書の中の国際交流」にて示し、” The Book Collection of a Literati Daimyo in Early Modern Japan and Information Exchange” 及び「平戸藩主松浦静山の書物収集と情報交流」というタイトルで学会報告を実施した。

#### (4) 『甲子夜話』原本の搜索

早稲田大学所蔵の『甲子夜話』伝存冊について、松浦史料博物館所蔵の副本「甲子夜話」との校合を行った。『甲子夜話』には、静山が閲覧に供した林述斎の書込みが、述斎の筆を模するかたちで収録されている。早稲田大学本は、平戸藩・楽歳堂の罫紙に書かれ、さらに、この述斎の書込み部分が、意図的に切り抜かれた後、製本されたものであったことが確認できた。極めて原本に近いという推定にいたったが、未だ決定的な確証を得るにいたっていない。

#### (5) その他

①松浦静山が楽歳堂（書物蔵）を建造するに際して、その資金を供給したのは、平戸藩内の有力な捕鯨業者益富家であった。かかる松浦家と捕鯨業者との関連、特に御用金の上納をめぐる関連について、井元家に残った借用証文と藩主の書状から分析を行った。

②『甲子夜話』の浄書写本など、静山の著述類を江戸から平戸へと廻送し、その保全に大きな功績があった第 10 代藩主松浦熙の先祖認識を、熙の随筆『亀岡随筆』を中心に明らかにした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

① 岩崎義則 (単著)、「松浦家の先祖認識について—特に松浦熙の場合」、『松浦党研究』第 34 号、査読無、2011 年 9 月 10 日、PP108-115。DOI コード及び URL なし。

② 岩崎義則 (単著)、「捕鯨業者井元弥七左衛門と平戸藩」、『史淵』147 輯、査読無、2010 年、PP.39-75。DOI コード及び URL なし。

〔学会発表〕(計 4 件)

① 岩崎義則 (単独) 「福岡藩に関する平戸藩楽歳堂所蔵文物の紹介—特に「花伝書」の伝来について」、福岡市史編纂室近世史部会研究会、2011 年 3 月 6 日、於福岡市博物館。

② 岩崎義則 (単独) 「平戸藩主松浦静山の書物収集と情報交流—楽歳堂文庫蔵書目録の検討」、九州史学会、2010 年 12 月 11 日、九州大学。

③ Iwasaki Yoshinori (単独) The Book Collection of a Literati Daimyo in Early Modern Japan and Information Exchange: An Investigation into the catalogue of the Rakusaido Collection of Hirado-han. , “Monies, Markets and Finance in China and East Asia, 1600-1900” , 2010 年 4 月 14 日 ,Tuebingen university (ドイツ)

④ 岩崎義則 (単独)、「書物の中の博物館—平戸藩主松浦静山著「甲子夜話」の世界—」、第 63 回日本栄養・食糧学会大会、2009 年 5 月 20 日、於長崎ブリックホール。

〔図書〕(計 1 件)

① 岩崎義則 (単著) 「大名蔵書の中の国際交流—平戸藩楽歳堂の蔵書目録から」、森平雅彦・岩崎義則・高山倫明共編『東アジア世界の交流と変容』所収、査読有、九州大学出版会・2011 年 4 月 15 日、PP.149-161。

〔その他〕

ホームページ等

<http://yosi-iwa.sakura.ne.jp/programs/essay/contents/public/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩崎 義則 (IWASAKI YOSHINORI)  
九州大学・人文科学研究院・准教授  
研究者番号：60294849

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：